

あいち朝日遺跡ミュージアム企画展

弥生農耕 ことはじめ

— 出土した農具から探る —



はじめに

弥生時代に農耕が始まると、様々な農具が普及していきました。収穫に用いられた石包丁、脱穀や籾摺りに用いられた杵や臼は、農耕とともに大陸からもたらされた新しい道具でした。一方、大型石包丁のように、その役割がはっきりと説明されていない道具もあり、現在も研究が進められています。

本企画展では、九州から中部地方で出土した、収穫・調製（脱穀、籾摺りなど）に用いられた農具を取り上げ、弥生時代の人々がどのようにコメを収穫し、どのように保管・加工していたのか、弥生時代の農耕技術について考えます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

収穫の道具

弥生時代の収穫具としては、一般には磨製石包丁いしぼうちようがよく知られています。中国、朝鮮半島から農耕技術とともに伝えられた新しい石器です。しかし、日本列島の弥生時代を通してみると、石包丁だけでなく、石鎌いしがまや大型石包丁など複数の器種が使われ、磨製だけでなく打製石器も使われるなど、時期や地域によって多様なあり方をしていました。また、石器だけでなく、木製、鉄製の収穫具もあり、弥生時代の収穫具は複雑な様相を示しています。

本企画展では、西日本から中部地方にかけての代表的な収穫具を紹介するとともに、弥生時代の収穫技術について考えます。



1 ○弥生初期の収穫具 菜畑遺跡
弥生早期～前期/唐津市教育委員会蔵



2 瀬戸内の収穫具 南満手遺跡
弥生中期/総社市館蔵



3 ◎東海西部の収穫具 朝日遺跡
弥生前期～中期/あいち朝日遺跡ミュージアム



4 石包丁と大型石包丁の使用法



5 木鎌 南方遺跡
弥生中期/岡山市埋蔵文化財センター蔵



6 摘鎌と鉄鎌 吉野ヶ里遺跡
弥生後期～/佐賀県文化課文化財保護・活用室蔵

1～3・5：本館撮影、4：原田幹 2020「石包丁と大型石包丁の使用痕」『弥生農耕一田んぼとはたけー』大阪府立弥生文化博物館、6：佐賀県文化課文化財保護・活用室

調製の道具

収穫された米は、ハサかけなどにより乾燥させます。次に穂から籾を分離する脱穀が行われます。脱穀には、稲穂を打ち付ける方法、踏みつける方法、穂をしごく方法があります。江戸時代に発明されたとされる千歯扱きは、しごく方法を発展させたもので、日本独自の脱穀用の道具でした。脱穀された籾は、籾摺り、精米(精白)を経て、いよいよ調理が可能となります。

弥生時代には、^{たてぎね うす} 豎杵と臼が出土しており、これらの道具を使って、脱穀・籾摺り・精米までの一連の作業が行われていたと考えられています。



7 豎杵と臼 吉野ヶ里遺跡
弥生/佐賀県文化課文化財保護・活用室蔵

わら 藁利用の可能性

日本では、昔から稲藁を肥料や燃料、住居の屋根、壁、敷物など様々な用途に利用してきました。また、縄、草履、蓑など工芸品の材料としても重宝されました。

弥生時代に稲藁はどのように利用されていたのか、実はそれほど明らかになっていません。弥生時代では稲藁はあまり利用されず、穂を刈り取った後の残穂はそのまま放置され、水田にすき込まれたという意見もありますが、果たしてそうでしょうか。ここでは、断片的な情報から、稲藁利用の可能性について探ってみます。



8 横杵 南方遺跡
弥生中期/岡山市埋蔵文化財センター蔵



9 藁たたき槌と藁たたき石 民具
現代/奥三河郷土館蔵

蓄える

米は一粒からたくさんの量を収穫でき、長期間保存することもできることから、生活の安定に寄与してきました。

弥生時代、収穫した米は、^{たかゆか そうご} 高床倉庫に貯蔵されました。床を高くすることで、作物を湿気やネズミなどの害から守っていたのです。また、弥生土器には、貯蔵用の壺が一定量を占めていました。このなかには、種籾などの貯蔵に用いられたものもあったでしょう。

米などの作物がどのように保管・管理され分配されていたのか、弥生時代の社会を考えるうえでも重要な問題の一つなのです。



10 彩文土器・壺 菜畑遺跡
弥生早期/唐津市教育委員会蔵

模型で見る弥生時代の農作業

あいち朝日遺跡ミュージアムの基本展示室には、朝日集落の構造や生活の様子を描いた精巧な模型が展示されています。田起こしから始まり、田植え、草取り、収穫作業まで、水田での農作業の様子をみることができます。また、水田の奥にはアワやキビの畑があります。さらに、収穫した後の乾燥、脱穀・^{ふうせん}籾摺り、風選、稲藁の加工といった様々な作業を取り上げており、農耕の一連の作業がイメージできるでしょう。



田起こし



田植え



収穫



脱穀



稲藁の加工



ヤナによる漁

11 農地での作業 朝日遺跡復元模型 本館基本展示室

<凡例>

- ・本書は2023年10月21日から12月17日まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「弥生農耕ことはじめ—出土した農具から探る—」のパンフレットである。
- ・本書の構成と実際の展示構成とは異なる部分がある。掲載写真は展示品の全てではない。
- ・本書の時期区分は、弥生時代早期(BC.10~BC.8c)、前期(BC.8~BC.4c)、中期(BC.4~BC.1c)、後期(AD.1~2c)、終末期(AD.2~3c)とするが、各地域の並行関係は厳密なものではない。なお、朝日遺跡等東海地方の弥生時代開始(前期)は、BC.6cと想定している。
- ・掲載資料のうち重要文化財には「◎」、市指定文化財には「○」を付している。
- ・本書の執筆・編集は、原田幹が行った。

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL : 052-409-1467 ■ 駐車場 15台

企画展

「弥生農耕ことはじめ
—出土した農具から探る—」

編集・発行

あいち朝日遺跡ミュージアム
2023(令和5)年10月21日発行



**AICHI ASAHI
SITE MUSEUM**
あいち朝日遺跡ミュージアム

